



## 活字が好き ～「季刊清水」の再刊～

季刊清水編集長 鍋倉 伸子

静岡図書館友の会の総会、講演会などに会員として参加させていただいています。本好き、読書好きの皆様の中にいることがとても心地よく、講師の本が売ればなおさらです。

「季刊清水」は1975年に亡父戸田寛が創刊しました。父が始めたときは、私は清水に住んでいなかったし、歴史・郷土史にも全く興味がなく、「お父さんの道楽」と思っていました。最初、年何冊か出したときもあったようですが、年1冊でタイトルは「季刊清水」が定着し、35号まで続いて父の病気で休刊状態になっていました。2002年4月、旧清水市議会で清水と静岡の合併が決まった日に、合併に反対だった父が亡くなり、父も清水も消えてしまったように感じました。それで翌年思い立って「季刊清水」を再刊することに決めました。

父の編集に全くタッチしていなかったので手探りで始めましたが、周囲の雑誌編集やパソコンに強い人たちが編集委員を引き受けてくれたことは心強かったです。そのとき決めたのは、表紙は美術作品でカラー印刷にする、中身は活字中心にするということでした。15年前の再刊当時すでにビジュアルなしゃれた雑誌が出回っていました。しかし私は時流に反してでも内容を掘り下げた活字の多い読み応えのあるものにしたいと思いました。36号から49号まで出した今も、愛読者カードに「字が多くて細かすぎる」と苦情が書かれることもあるのに、頑固にその方針を貫いています。方針は頑固でも、内容は全く流動的で、そのとき、そのとき関心を引くもの、提案のあったものなどで、言わば行き当たりばったりで特集を組んできました。たまたま会った人にチャンスがあればすかさず原稿を依

頼するということもあり、消極的な性格なのにそういうときは積極的になるのが不思議です。最初は混沌としていたテーマが、編集委員や原稿をお願いした人との話し合いを積み重ねるうちに、だんだん形が見えてくる面白さが、続けている理由ではないかと思えます。

特集1のテーマは大正の合併・巴川・三保・庵原・港・戦争直後・飯田・有度山・興津川・次郎長・高度経済成長期・江尻宿・宗教など、さまざまです。「清水がお好きなのですね」と言われることがありますが、「はあ」と生返事しながら「清水が好きなのだろうか？」と自問自答します。確かに特徴のある清水のまちですが、清水の人はどうなのか。『だけん、人はいいだよ』は、42号終戦直後特集でインタビューした村松友視氏の本のタイトルですが、「首をひねりつつ、共にある、うまく言い表せない清水の人たち……」という感じ？ でしょうか。

特集とは別に毎号「清水と私」というエッセイを1ページずつ何人かの方をお願いしています。何気ないエピソードが毎号の厚みを増してくれる気がして、そこだけ読んでくださる読者があってもいいと、とても気に入っています。



「季刊清水」

※ 2003年(H15年)4月、旧静岡市と旧清水市が合併して新「静岡市」が誕生しました。

# 第 21 回静岡県図書館交流会報告

富士宮市立芝川図書館 高瀬 一樹

今年の図書館交流会は、静岡県立図書館の在り方をテーマに行われました。

まずは県立中央図書館の河原崎館長より、同館の今までの歩みと今後の方針についてお話しいただきました。

同館は、県内図書館への協力車の運行や横断検索システムの運用などの様々な事業により、静岡県の図書館活動の中心としての役割を担ってきました。しかし、建物の老朽化や所蔵資料数が収蔵能力の限界に近付いていることなど、主に施設面での問題を抱えているとのことでした。

そのような状況の中で、昨年頃より東静岡駅前の再開発計画の一環として県立図書館の新館についての構想が浮上。同じく昨年には「県立図書館整備の検討に関する有識者会議」も開催され、新館の基本構想案が検討されました。構想案の中では「県民の生涯学習拠点」「県内図書館の支援」といった基本的機能や、管理運営は直営が望ましいということが改めて謳われ、さらに館長自らがご提案で設けられた「担うべき役割を果たすために」の項目では、司書有資格者の継続した配置や資料費の安定的充実など、県立図書館が持続的にその機能を果たしていくための方針が示されたとのことでした。

続いて、県立図書館を利用する立場である3名の

方からお話がありました。

東伊豆町立図書館の内山淳子さんは協力車や研修といった事業の有用性を、浜松市立佐久間図書館の長谷川陽子さんは日頃の業務について県立の支援に助けられた経験を、そしてNPO法人うぐいすりボン理事の佐久間美紀子さんは、静岡を題材とした著作を執筆された際に、県立が所蔵する一般的には需要が無さそうな地域資料が役立った経験を話され、県立ならではの機能の重要性をそれぞれに訴えられていました。

会の最後には、新県立図書館に関するアピール文が参加者によって採択されました。



図書館交流会風景

※ 2017. 5. 22（月）、静岡県立中央図書館にて実施。参加者 63 人。

## アピール文

静岡県図書館交流会が望む、新しい県立図書館のすがた

静岡県図書館交流会は、静岡図書館友の会を含む 27 団体が、2016 年 11 月 16 日付で静岡県教育長へ提出した「静岡県立図書館の新館建設についての要望書」に賛同いたします。特に要望書に挙げられた下記 3 項目について広く県民にアピールいたします。

- 1 県民の知る権利を支える豊富な資料。
- 2 県民への直接サービス機能と、市町立図書館等へのサポート機能を十分に発揮できる規模。具体的には、少なくとも全国平均の 12,000 m<sup>2</sup>を上回る面積。
- 3 専門性・経験を重視した十分な職員体制。

2017 年 5 月 22 日

第 21 回静岡県図書館交流会参加者



# 県知事候補者に公開質問状を送りました

2017 年 6 月 25 日（日）、静岡県知事選が実施され川勝平太氏が三選を果たしました。

静岡図書館友の会ではそれに先立ち 6 月 6 日（火）、県知事候補者へ「公開質問状」を送付し、事前に回答をいただきました。当選された川勝平太氏の回答は次の通りです。この質問と回答は当会のホームページで公開しました。また、6 月 22 日（木）の静岡新聞にも掲載されました。【静岡図書館友の会のホームページ URL】 <http://shizutomo.sakura.ne.jp/>

## 【川勝平太氏の回答】

**Q.1 図書館は「自治体の文化のバロメーター」と言われていますが、静岡県の文化・教育行政に於ける図書館の位置づけは、どのようなものであるべきとお考えですか。お聞かせください。**

A.1 本県においては、図書館行政は、教育委員会が所轄しています。私は、図書館が“ふじのくに”静岡県の文化や経済など、県民のあらゆる活動を支えその発展に寄与する重要な知的基盤であるべきと考えています。具体的には、県民の自立的な判断を支えるとともに、生涯学習や読書活動の拠点であるとの位置づけの下、整備・運営されるべきです。

**Q.2 静岡県立図書館は、直営の運営体制を堅持し、県民に充実したサービスを提供しています。専門性と知的財産を次世代に継続できる直営体制を今後も続けていただけますか。**

A.2 県立図書館は、市町立図書館等に対する支援・指導や、県民のニーズに対応した専門性の高いレファレンス（調査相談）サービスなどが、重要な機能として期待されています。今後とも、県民サービスの向上を目指して運営体制を含む不断の見直しに取り組むことが必要ですが、現時点では、県の直営体制が基本と考えます。

**Q.3 県内の市町図書館への支援、他機関とのネットワーク、ユニバーサルデザインについてのビジョンをお聞かせください。**

A.3 県立図書館にとって最も重要な役割の一つは、市町立図書館への支援です。今後も人的・物的な支援を通じて市町立図書館の振興を図ることが必要と考えます。また、県全体の知的基盤の向上を目指す上では、資料の収集や活用などの面における他機関との連携が今後ますます重要になります。図書館は県民誰もが利用することができる生涯学習や読書活動の拠点であることから、ソフト・ハードの両面でユニバーサルな環境を整備する必要があります。

**Q.4 今後の新館建設計画についてのビジョンをお聞かせください。**

A.4 現在の施設は建築から 48 年が経過し、老朽化・狭隘化への対応が喫緊の課題となっております。また、この間に図書館を取り巻く環境も大きく変化しております。このため、教育委員会では現在、県民にとって最適な書館のあり方を検討しているところです。県立図書館は、本県の文化・教育行政の基盤を担う機関として最も重要な施設であることから、私としても、木苗教育長をはじめとする県教育委員会の皆様と連携して、東静岡駅南口県有地に整備検討を進めている「文化力の拠点」施設への導入も含め、新たな図書館の整備を早期に進めたいと考えております。

# 山崎佳代子氏の講演を聞いて

## —食物・女・戦争セルビアから時代を読む—

静岡女性史研究会 尾崎 朝子

講師の山崎先生は1956年、石川県金沢市に生まれ静岡市で育ちました。北海道大学卒業後、サラエボ大学でユーゴスラビア文学史を学び、2003年に博士号を取得。その後ベオグラード大学院に在学しつつ助手、そして文学部教授となり、現在セルビアのベオグラードに住んでいます。詩人としても活躍し、日本の近現代詩を翻訳して旧ユーゴスラビアに紹介しています。翻訳書や著書を多数出版し、2015年には『ベオグラード日誌』で、読売文学賞の紀行賞を受賞しています。

1991年、ユーゴスラビア紛争で難民となった人びとがベオグラードに流れてきて以来ずっと難民支援をされてこられた山崎先生は、“食べ物”を通して戦争の実相を伝えようと、取材されたことや、ご自分の実体験からの思いなどを話されました。

∴

野菜を刻む音や煮える音、食器の音などすべて音は音楽です。詩人が意図していることは、音や言葉の後ろにはいろんな意味が広がっているということを知らせることです。

食べ物を通して何かを伝えることも文学です。紛争が起こった時私は、どんなものを誰と食べるか、私たちを取り巻いているものは何か、人間の営みは何なのか……を知るために、難民の同僚や友人や知人たちに取材をしました。

○そこには火を使わなくてもよいコンロがあって、今は敵となった民族のお婆さんに、自分の息子のように心から世話をしてもらい命を守ってもらった。

○食べ物によって人は結ばれ、食べ物から元気をもたえ、食べ物という命の糧を分けあって食べた。

○1杯のミルクに感謝しあったこともあった。

○ご馳走はないけれど少しのものを分け合って食べることの歓びを知った——等々。

生きていくため人は自然とどう向き合うのでしょうか。教え子の家に行ったとき、ニワトコの花のてんぷらが美味しいことを知りました。自然の恵みも私たちを守ってくれました。また、野草ばかりでなく、鳩の胸肉は美味しいのでみんな捕まえて食べてしまい、その村には平和の象徴と言われる鳩が1羽もいなくなりました。

ある難民センターでは、見知らぬ子どもたち同士が本当の兄妹のように生活していました。仮設住宅は不便だから、そういう環境の中では子ども達は豊かに育たないということではなく、かなり精神的に豊かな生活をしているのです。そばに人がいるかぎり、そこには必ず喜びがあり、どんな厳しい状況であっても人は負けないのだとつくづく考えさせられました。

戦争が無くて豊かでお金持ちの国だから幸せかというそうではなく、どこにいても一人ぼっちでない限り前に進めるのです。

∴

孤食とか孤独死や自殺について度々話題になっている日本。講演をお聞きしていろいろ考えさせられることばかりでした。未来を戦争のない平和な世の中にするにはどうしたらよいかと考える時に、山崎先生のお書きになられたたくさんの書物は、歴史の記録として重要になるでしょう。未来を拓くには過去を知らなくてはならないから…。勁草書房から出版されるという『戦争と食物、セルビアから時代を読む』が楽しみです。



※ 2017.6.17 (土)、静岡労政会館にて実施。参加者 95 人。

講演風景

# 清水区内の生涯学習交流館の図書室は町の知恵箱

静岡図書館友の会副代表 山田 健司

清水港の日の出埠頭の一角に、各種イベントから市民が自由に利用できるマリンビルがある。玄関を入ると総ガラス張りの明るく開放されたロビーには自由に閲覧できる文庫がある。実はこの文庫は、清水区出身の経済アナリストで静岡新聞の「論壇」の執筆者故・竹内宏氏が寄贈したもので、ソファに座って港を眺めながら本を読み憩える場所になっている。

旧清水市（現清水区）内には公共の清水中央図書館・興津図書館の他に、各学区の生涯学習交流館内にも図書室があつて、その数は19か所で地域に住む住民だけでなく誰でも利用できる。これらの図書室は小規模で地区によって違いはあるが、ふだん着で気軽に利用できるという利点があるだけでなく、それぞれの地域の特性をもって運営されている。

私の住む船越地区では『交流館だより』が毎月全戸配布され、新着図書のお知らせが掲載されるから、今度どんな本が入ったかすぐにわかり便利である。

旧清水市ではいまから40年くらい前から、21世紀に向かって新しいまちづくりが提唱されていた。住民主体のまちづくりとして全国に先駆けて発足した各地区のまちづくり推進協議会は、地域住民の総意に基づき地域の実情にあったまちづくり事業として多彩に展開されていった。社会教育活動として各学区の公民館（現生涯学習交流館）を中心に、行政と市民がひとつになってその実情は高く評価された。それらは住民一人ひとりの努力の積み重ねによって作られていったもので、これらは得難い財産となった。公民館活動中心の個性あるまちづ

くり活動の、基本力となり原動力となったものは何だったのか。改めて考えてみる必要があると思う。

港のマリンビルの図書室を生み育てたのは故・竹内宏氏であつたように、各地区にはその地区に住む何人かの篤志家がいた。友人のD氏は地域でも知られた郷土史研究家であつたが肝臓がんで死去した。遺言で書斎の静岡県史全巻と郷土の歴史書の一部を、地区の皆さんに利用して下さいと、公民館の図書室に寄贈した。旧清水市の各公民館の図書室は、こうした人たちによって地域の文化を支え、住民の力によって守られてきた。

文化やまちづくり活動の成果はすぐに目に見えて表れてくるものではない。ゆるやかな時間を経過してじわじわと浸透していくものだと思う。

清水区内の各地区のいまは呼び名も変わった生涯学習交流館の図書室は、地味で目立たないが町の発展にひとつの役割を果たして、いまやしっかりと定着した。各地区の生涯学習交流館図書室は、まちの小さな知恵箱のようなものだ。

図書館は文化のバロメーターということを改めて実感した。





# 図書館から こんにちは



## 「図書館での日々」

清水興津図書館・主事 清水 千佳子

昨年の4月から清水興津図書館で働いています。社会人として1年目ということもあり、すべてが初めてのことばかりで、気が付いたらあっという間に一年が過ぎていました。周りの多くの職員、時には利用者の方にも助けてもらいながら、日々図書館で仕事をしています。

もともと本は好きで読んでいましたが、読むのは小説ばかりでした。しかし図書館で働くようになって、「せっかくたくさん本があるのに読まないのはもったいない!」と思って、少しずつ今まで手にとることのなかった本にも挑戦しています。

最近借りるようになったのが料理本です。進学を機に一人暮らしを始めましたが、なかなか一人分の自炊をするのが面倒で、ついつい買ったり、作っても適当な物ばかりでした……。しかし、いい加減このままではまずい!と思い、少しずつ料理を頑張っています。

理を頑張っています。

図書館にはほんとうにたくさんの本があります。普段自分が読んだことのないジャンルに挑戦してみるのもいいかもしれません。

では、私が勤務する清水興津図書館について紹介させていただきます。

当館は平成16年に開館しました。窓からは、駿河湾を一望することができます。図書館内も、高さを押さえたつくりの書架を配置し、書架の間や通路も広々としたスペースとなっており、ゆったりと本を選ぶことができます。

また「おはなしのへや」には興津鯛のステンドグラスがあり、そこからは明るい陽の光が差し込みます。おはなし会などの催しも行われます。

ぜひ興津図書館へご来館ください。職員一同お待ちしております。

## 市内図書館ニュース

### 「しずとしょフェスタ」でお待ちしています

静岡市立中央図書館・主任主事 杉浦 明日香

毎年、中央図書館で開催している「しずとしょフェスタ」が今年で9周年を迎えます。9回目のフェスタは、「図書館を5倍たのしむ日曜日♪～手をつなぐ図書館サポーターたち～」と題してセロ弾きのゴーシュの朗読会や、手回しオルガンの演奏、お子様向け絵本の読み聞かせや工作など様々な催し物をご用意しております。

このフェスタは例年、静岡図書館友の会と中央図書館の協働で開催してきましたが、今年はそれに加え音訳ボランティア・ひびきの会、静岡

岡おはなしの会、麻機分館と美和分館で活動しているおはなし会など、日頃から図書館の運営にご協力をいただいている団体との協働で行うことになりました。さらに、去年好評だった山本耕三さんによる手回しオルガンの演奏もあります。

例年よりたくさんのメンバーが集まって手がけるフェスタは盛り上がること間違いなしです。10月29日はぜひ中央図書館で「しずとしょフェスタ」をお楽しみください。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

※ 10月29日(日)、中央図書館で「2017しずとしょフェスタ」を開催します!



## 南半球ぐるっとひとめぐり ～どこでも行ってやろう～

静岡図書館友の会・運営委員 山下 多津美

昨年12月に横浜を出港して104日間のピースボート・クルーズに参加しました。18か所に寄港し、約30か所を巡り、ほぼ南半球をぐるっとひとめぐりしてきました。

104日間の過ごし方は各人自由、多種多様な船内企画が用意されているのでそれに参加するもよし、仲間を募って好きなことに没頭してもよし、多少の制約はあるにせよ自分の好きなライフスタイルを謳歌することができます。

私の大きな目的は、オプションツアーに参加して南半球の主要な観光地を訪問することでした。バオバブ街道（マダガスカル）、ヴィクトリアの滝（ジンバブエ）、クルーガー国立公園・喜望峰（南アフリカ）、ウユニ塩湖（ボリビア）、イグアスの滝（アルゼンチン）、マチュピチュ遺跡（ペルー）、イースター島（チリ）、タヒチ・ボラボラ島（仏領）等々、日程の組み合わせを考慮して多くの観光地を巡ることができました。

しかし、何といっても最も行きたかったのは南極大陸です。ツアー料金も半端な額ではないのですが、思い切って行ってきました。結果は天候に恵まれ大陸・島合わせて5回も上陸できました。南極の風景、空気、何とも言えぬ静寂感……そこにいるだけで心が洗われるような気がします。中でも一番魅かれたのは間近で見る氷山・氷河の何とも言えぬ神秘的なブルーの色彩です。こればかりは言葉でも写真でもとても伝えられるものではありません。これらは現地へ行った者だけが味わえる究極の贅沢かと思います。ペンギンのかわいさと相まって一生忘れられない良い思い出になりました。写真を撮るのが好きで、（船上のカメラマンとして）神秘的なアイスブルーの被写体も多数撮ってきましたが、肉眼で感じた感動からはまだまだかなり乖離しているように思います。

南極を含め、かねてから希望していた観光地のかなりの場所を訪問できたので、自分としてはほぼ満足のできるクルーズであったと言えます。人生の最終ステージにさしかかり、自分を見つめ直すいい機会にもなりました。

しかし、プラスの面があればマイナスの部分もあるのが物事の道理……。具体的な説明は割愛するとして、船上生活の日常場面、船の管理運営からオプションツアーのサービスに至るまで憤りを覚える場面も多々ありました。ですから、自分がいい思いをしたからといって何人にも無条件で勧められるというものではありません。長期のクルーズ等への参加を計画の際は、内容全般にわたり可能な範囲で周到な調査をすることをお勧めします。参加の是非に関わらず、その方が良い結果がついてくるように思います。



バオバブ街道：マダガスカル



イグアスの滝：アルゼンチン



南極の氷山



アフリカゾウ：クルーガー国立公園（南アフリカ）

## 実施事業・これからの事業日程

### ■ 第 21 回静岡県図書館交流会 : 実行委員会と共催

5月22日(月)、静岡県立中央図書館にて「第21回静岡県図書館交流会」を開催しました。

【テーマ】いま改めてこれからの県立図書館を考えよう

※ 詳細は会報(第18号)P2の関連記事をご覧ください。

### ■ アピール文と県民からの要望等を提出

6月5日(月)、静岡県立図書館の新館図書館建設についての「アピール文」と「県民からの要望」を下記の方たちにお渡ししました。

・静岡県教育長、静岡県社会教育課長、静岡県議会議員各会派、マスコミ

※ アピール文については会報(第18号)P2の関連記事をご覧ください。

### ■ 県知事候補者へ公開質問状を送りました

6月6日(火)、県知事候補者へ「公開質問状」を、「静岡県立図書館の新建設についてのアピール文と要望」ほかを添えて送り、お二人から回答をいただきました。

※ 詳細は会報(第18号)P3の関連記事をご覧ください。

### ■ 新たな静岡県立図書館建設を望む要望書提出

静岡図書館友の会は、県内の図書館ボランティア4団体とともに7月に「新たな静岡県立図書館を望む会」を設立しました。現在、新たな静岡県立図書館建設に関する要望書を準備中であり、9月中旬以降に静岡県知事及び静岡県議会議長あてに提出の予定です。詳細については当会のホームページに掲載していきます。

【静岡図書館友の会のホームページ URL】 <http://shizutomo.sakura.ne.jp/>

### ■ 2017 図書館セミナー

6月17日(土)、山崎佳代子氏講演会を実施しました。

※ 詳細は会報(第18号)P4の関連記事をご覧ください。

### ■ 「2017 しずとしょフェスタ」

【図書館を5倍たのしむ日曜日♪～手をつなぐ図書館サポーターたち～】

10月29日(日)は中央図書館へ集まれ!

当日は、「子供向け絵本の読み聞かせ」「工作」「ストーリーテリング」「手回しオルガンの演奏」「セロ弾きのゴーシュ朗読会」「対面朗読・録音図書の体験」等、盛りだくさんのメニューを用意してお待ちしています。

※ 会報(第18号)P6に関連記事があります。

### ■ 2018 年度第 10 回静岡図書館友の会総会・講演会

鈴木重子氏: ヴォーカリスト。ポップス、クラシック、ジャズ、童謡……。ジャンルを超えて、いのちの響きをつむぐ歌手。音楽の枠を超えた講演&澄んだ歌声が会場に響きます。

浜松市出身。

※ 皆様の来場をお待ちしています。

○ 講師: 鈴木重子氏

○ 演題: 未定

○ 日時: 2018年3月4日(日)午後

○ 会場: 静岡県総合研修所もくせい会館

静岡図書館友の会会報 No.18 2017.9

静岡図書館友の会 代表 田中 文雄

連絡先: (総務携帯) 080-6910-9434

Eメールアドレス: [sizutomo2008@yahoo.co.jp](mailto:sizutomo2008@yahoo.co.jp)

ホームページアドレス: <http://shizutomo.sakura.ne.jp/>

(会員数) 219人: 2016年12月現在

(表紙イラストデザイン: J.T.)

#### 編集後記

・今号も玉稿に感謝です。元気不足時の私のビタミンC Dのひとつは、中世楽器のリユートです♪。あなたは? 暑い夏でした。(J.T)

・図書館問題や知事選、イベントと次々報告や会員の言葉が満載で編集者のはじっここの私もすごいなーと感心しています。(N.S)

・7月に宮城県名取市の仮設住宅の夏祭りの手伝いに行き、紙芝居とよみきかせを行ってきました。東北を忘れまい!! (T.Y)